

小田原市青少年問題協議会 会議録

- 1 日 時 平成28年11月4日(金) 午後3時～4時30分
- 2 場 所 小田原市役所 議会全員協議会室
- 3 出席者
 - (1) 委 員 加藤会長、橋本副会長、磯田委員、今屋委員、江島委員、大川委員、大場委員、角田委員、川瀬委員、下田委員、鈴木委員、田中委員、仲谷委員、錦織委員、野崎委員、早川委員、和田委員
 - (2) 事務局 山崎子ども青少年部長、北村子ども青少年副部長、石井青少年課長、宮川青少年課副課長、浅野青少年相談担当副課長、淵上育成係長、吉川主事
- 4 議 事
 - (1) 協議事項
 - ア 副会長の選出
 - イ 小田原市孝養賞受賞者の選考【非公開】
 - ウ 小田原市善行青少年及び優良青少年団体並びに青少年育成功労者等表彰における被表彰者の選考【非公開】
 - エ 青少年と育成者のつどいについて
 - (2) 報告事項
 - ア 平成28年度上半期青少年関係事業結果報告
 - (3) 意見交換
- 5 会議の概要

(1)協議事項 ア 副会長の選出

議 長	小田原市青少年問題協議会条例第3条第3項の規定により、副会長は互選となっている。
委 員	議長に一任してはどうか。(出席委員 異議なし)
議 長	橋本委員を副会長に指名。(出席委員 承認) (橋本副会長あいさつ)

(1)協議事項 エ 青少年と育成者のつどいについて

議 長	次に、協議事項(1)エの「青少年と育成者のつどいについて」を議題とする。事務局から説明をお願いしたい。
事務局	「青少年と育成者のつどい」は青少年育成者と中学生がお互いを知るとともに、市民の理解を深める目的で実施するもの。

小田原市とともに青少年問題協議会が主催し、青少年育成推進員協議会が主管する事業である。平成28年度は、12月3日（土）の午前9時30分から川東タウンセンターマロニエにて開催を予定している。例年のとおり、2部構成となっており、前半は、市内12の中学校の代表が作文を朗読する「中学生の主張発表」、後半は、本日、選考していただいた、善行青少年等の表彰式となっている。

主催者である青少年問題協議会では、会長である市長と副会長にそれぞれ挨拶を、市議会議長には祝辞を、また、教育委員会教育長には「中学生の主張発表」の総評をお願いしたいと考えている。被表彰者には記念品を、中学生の発表者には記念のメダルの贈呈を予定している。

議長

ただいまの件について、ご意見、ご質問等あればお願いしたい。

（質疑なし）

議長

質疑もないようなので、「青少年と育成者のつどい」については、ただいまの説明のとおり進めさせていただくのでよろしくお願いしたい。本日の協議事項は以上となる。

（2）報告事項 ア 平成28年度上半期青少年関係事業結果報告

議長

引き続き、報告事項に移らせていただく。
平成28年度上半期青少年関係事業結果報告について、事務局から説明をお願いしたい。

（資料にもとづき説明）

議長

ただいまの事務局の報告について、ご意見、ご質問等があればお願いしたい。

委員

ただいまの説明の中で子ども教室の説明がなかったが所管が違うためということか。

議長 子ども教室は、教育委員会の事業となる。大きな意味では青少年関係の事業であるので、このような隣接するような事業は今後、載せていく必要があるかもしれない。

委員 スクールコミュニティ事業には市から補助金がでているのか。

課長 上限が65,000円であり、委託料としてお支払いしている。

委員 放課後子ども教室と放課後児童クラブの違いはどのようなものか。

課長 放課後児童クラブは、現在、片浦小学校を除く24小学校で実施しており、放課後に適切な保護を受けることができない児童に対し、日常生活の場を提供している事業であり、一方、放課後子ども教室は現在4校でモデル実施しており、学習の場、体験の場を提供する事業である。

委員 放課後児童クラブは、簡単に言えば見守りをする場であるが、子ども教室は、もう少し積極的に教育的な視点において関わっている事業であり、教育経験者が関わり事業を行っている。現在は双方で補完しながら順調に進んでいる。

(質疑終了)

(3)意見交換

議長 以上で予定していた議事は全て終了となるが、会議終了予定まで、まだ時間があるので、お集まりの皆さんと意見交換の場を持ちたいと考えております。

意見交換のテーマについては、事前にお知らせしたとおり、「子どもを取り巻く「遊び」を考える」とさせていただいている。事務局から説明をお願いしたい。

(事務局説明)

議長 はじめに、各委員の皆様が子どもの頃に経験された遊びについて振り返っていただき、今の自分にその遊びがどのような影響を与えたのかといった点について意見を伺いたい。

委員

僕は横浜で育ったのですが、山を駆けたり川で遊んだと、そういう経験は無いです。だから昔はどんな遊びをしていましたかという、川で魚釣りくらいは少ししたかもしれないが、遊びっていうと小さい頃からずっと友達と野球をしていました。ただ、今、だいたい大人が管理したチームの中で、子供達が野球をするのが普通だと思うんですけど、僕の場合はそういうチームが無くて自分達でチームを作ってやっている。他にも対戦相手がほとんど無いですけども、遠くの対戦相手の所に自分達が訪れて、今度いついつ試合をやろうよと、交渉も自分達でやる。すると、草があったら草刈とか、整備をしたりとか、ロゴを作ろうかということまで皆で考えて発注し、そういうことをやったというのが良かったのではと思っています。3つ下の弟がいますが、その弟の時は既に大人が管理する少年野球チームができていたので、弟達はそこで育ったという感じです。僕は昭和40年生まれで、そういう感じでした。

議長

ありがとうございます。大概我々の世代の子供は、何かしらで野球っぽいことをやっているものですけど、我々も芦子小学校から帰る途中の田んぼでいつもやっていましたけどね、まあ、自分達でこう作っていった過程が、今のチームと違う中で体験できたというお話でしたね、ありがとうございます。その他いかがでしょうか。

委員

私、27年生まれで、今、言われたより私は10年くらい古いのかな。もう少し戦後を引きずっている頃で、生まれが山北でもっと田舎ですから、そういった意味では遊びとは野もあれば山もあれば川もある。という形で遊んできました。話を聞きながら思ったのは、まず野球に関して言うと、人数が揃わなければ三角ベースですとかその時の状況に合わせて自分達でルールを設定して遊び方を工夫していくというのが、いろいろな場面であったのではないかなと今思い出しています。それよりもその頃私が一番記憶に残っているのは、地域でいろいろな行事が、例えば、どんど焼きですとか冬行事があったんですけど、その行事を子供達がするにあたって、私なんかは幼稚園くらいからそういうのに入っていて一番上が多分中学3年生くらいだったのだと思います。年代の序列の中で、それぞれの役割があって、徐々に年齢を重ねるごとに、その役割が自分がこう超えていくというようなことをしながら、半分大人のルールみたいなものをそこで身につけたのではないのかな、これは後付けで、その時にはとにかく楽しくて年長者の後をくっついたりして、その中で時には殴られたり、時には褒められ

たり、お菓子をもらったりしながら楽しさと一緒に、仲間の批判でここまで許されるよ、これをしたら許されないよというものも含めながら遊んでいたのが、記憶としては今、蘇っています。ですから野球でもそうでしょうけれど、地域の指導者とか地域とかお仕着せのものじゃなくて自発的な遊びの中に自分たちのルールができていくのではないかなというのが率直なところです。だからその反面、最近の小学生、前にちょっと言ったかと思うのですが、養成講座で集まってくる小学生が、隣にいる友達にメールで話をするんですね。声じゃなくて。私のちょうど両隣でメールをやっていたので「誰にメールしてるの。」「いや、その人だよ。」「え、声かければいいじゃん」と思うのですが、その辺がちょっと我々と今、感覚がずれているのかな。逆に言うと大人の人でも同じ会社の中でも隣同士でメールでやり合うのはよく聞きますので、そのあたりも大人の社会の縮図かなと思いながら、最初の話と今の話と相、矛盾するのですけれど。以上です。

議長

ありがとうございます。隣り合う異年齢の中でいろいろなものを学んでいった、これは誰もが経験してきたことだと思いますし、また押し付けでない自発的な状態ってそもそも遊びの前提だというような発言に同感ですよ。その他どうでしょうか、皆さん聞いていて思い出してきたのではないのでしょうか。

委員

中学校を代表して来ていますので、自分の事より中学校としてということで、3点ほどお話をしたいと思うのですが、今の子供達の遊びというのは、今も出ておりましたが、メールとかゲーム。私の隣が公民館でそこに公園があるのですが、お休みの日に見ておきますと3人くらい中学生か小学生が来ていて、ずっとゲームをしてるんですね。割としゃべることもなくただひたすらゲームをやっている。1時間くらいしてまた見ると同じ光景があるのですが、非常にそういったゲーム、関心を惹くものというのは確かであるのですけれど、そこから現実というのがバーチャルと言いますか仮想の、そういったところに子供達が行きつつあるのかな。リアリティでなくてですね。そういった所から、数年前の川崎市教育委員会が遊び方を教えるというパンフレットを作ったということで、私は非常に情けないと思ったのですが、そういうところまで来ている状況であるということなので、一つにはそういった関わり合いというのが非常に直接話をしたりとか、今も大川委員から出ましたが、隣同士でもメールしているんですね。

そういったところに今の状況にあるのかな。私も中学3年生と面談しているのですが、聞いているとやはり大変多い子では3時間とか4時間とか、それが毎日繰り返されている状況で、どう思うのか聞きますと、多すぎると思うということで認識はしているのですが、そういう状況であるとこれが一点目です。

二点目は学校ではどういったことを行っているかという、やはり直接話したり聞いたりということを大事にしようということで関わり合うこと、そういうところから体験学習とか言語活動の充実ということで行っているのです。それは、話し合いとか、教え合いとか学び合いを重視した授業を取り入れて、そのように行うことによって積極的に関わり合う。またはゲームというか遊びの中でもウォーミングアップ、どこの団体さんでもいろいろな形でやると思うのですが、たとえば生年月日順に並ぼうとか。そういった中でやっている中で最近の文科の中でもアクティブラーニングと言って、自分達で答えを導き出す。たとえば算数とか数学でも三角形の公式を説明するとか、言葉でやるとか、そういったともかく言語を通じてとか、またはどう関わらせるかというのも非常に行って、それが遊びに一変していけばいいのですが、そういったことをやっているのが現状です。これが二点目です。

三点目は今後できることとすれば、やはり私は異世代間の交流というのが大事かなと思います。私もそうでしたが、人から物をもらったらお礼を言うんだよとか、こういう時はこう挨拶するんだよというのが、祖父母から孫へ、父母から子供へという状況も家族であると思うのですが、それと同時に地域に至っては学校でも言ってますけれど、敬老会に行かさせていただいたり、お祭りの中で関わり合ったり、そういった中で様々な関わり合いをしている。もう一つはやはりいろんな意味で昔の遊びというのですかね、たとえば剣玉とか折り紙とかめんことかどろけい（泥棒と警察という遊び）など、人との関わりを遊びの中で教えていただくこと。また、異世代間の中で本当に何が大事かというのを、挨拶をするというのは当然ですが、そういったことを併せていろいろな意味で、先ほども事業も紹介されていましたが、本当に素晴らしいなと思ったのですが、色んな機会を作ってやっていくこと、そんなことが地域も学校もまだまだ完璧とは言えないのですが、そういったところを通して関わり合いであり、遊びが個になってしまうという状況があると思うのでそういったところが大事かなと思います。

- 議長 ありがとうございます。ご自身はどんなだったのですかね。
- 委員 勉強なんかせず、遊びが中心でしたね。小さい頃はサッカーとかソフトなどやってましたけれど、ともかく鞆なんてほっぽり出してそのまま遊びに行っただけという、勉強なんかぜんぜんしなかったですね。そんな状況でした。私は昭和36年生まれです。
- 議長 だいたい分かりました。一つ目の遊びの体験ということで、40年生まれ、多分30年生まれ、あと36年、生まれですね、比較的近い10年ぐらいの中での3人でしたけれど、その上の方でも下の方でもよいですが。どうでしょうか。
- 委員 私はもっともっと上の年齢ですが、今は子供は考えても考えなくても物が豊かになった時代ですからね。私たちは考えなければできない時代でした。だから昔の遊びということで、缶を開けましてそこに穴を開けてポックリみたいに乗って遊ぶとか、竹馬やったりお手玉とかあやとりとかそういうのを作って、自分で作らなければ遊べなかった時代なのです。だから創意工夫というかそういうことをしてもったいないという思いから、お手玉こしらえるにも、何て言うのですか布を創意工夫して合わせる。枕型とか色々形を考えると、頭を使わないと遊べない時代だったのですよ。そうしてその中で育った次代と、今の子供というと本当にゲームが身近にあり、うちでも孫がいますけどゲームをやって会話が無いなというのも本当に感じております。だから今、お手玉作りなんていうのも、私達の時代、パッチワークにつながっているのかな、貼り合わせてそういうものをやるとか、折り紙なんかも頭を使う。手先を使う、本当に自然の中で学んで来たと思うのです。だからやはり物を考える力があつたのかなと思いますね。
- もう一ついいですか。私達の時代「お月見さん」なんていうのがございましてね、子供同士で、縁側でやったものです。今のお家は縁側なんていうのは少ないのですよね。本当、お年寄りも縁側で日向ぼっこする。声掛けしてくださる。それからお月見なんていうと縁側にどこでもススキをやって、みかん出したりお菓子を置いたりするのです。それを皆で取りに行く。取りに行くって言ったのです、子供の頃は。それをいただきに行く訳ですよ。それで皆で貰ってきたものを分け合って、上の方が分けてくださって分け合って食べ合った。そんな思い出が私の時にはありました。

議 長

本当に、遊ぶ素材を作るところからやらないということは、正にそうだったのでしょうか。

関わり合っていくという部分ですよ。お月見の時おだんごをもらったりするのはね、そういう部分も今もきつといろいろな所で、お祭りとかで工夫してやっているんでしょうけれど、本当に意識しなければいけないということですかね。

委 員

昭和24年生まれですけど、私たちの子供の頃というのは、戦後の混乱期から日本がどうやって行くかという、非常に厳しい時代でもあったので、親自体がかなり自分達のことですべてで、はっきり言って子供の面倒は今みたいに見れる状況ではなかったですね。子供会という組織はあったのですが、実際は名前だけの方で実際子供が運営してる、例えばラジオ体操にしても自分達でラジオがある家のところでやったりした時代です。遊びの方ですけど、結構いろいろ親の手伝いとかさせられた中なんですけど、やはりね、地域自体が今よりも結束力というかそれぞれあったものですね、ですから子供の方の社会も、やはりそれなりにちゃんとまとめる人もいたし、面倒見てくれる人もいたし、だから経済的にはかなり厳しい状態だったと思うのですが、精神面というかそういった方が逆に今よりも良かったなという感じがします。私の子供が今、ちょうど団塊世代で、まだ自由に遊べる場所ってのがあったのですよね、今は規制があり、田んぼで遊んでいることが問題になってしまうみたいなのですけど、自分の子供たちを見ている時は自由に遊べてよかったのですけど、自分の孫ですね、見ているとすごく規制がありすぎて。学校や桜井土曜クラブなんかがありますけど、本当に自由に遊べるいろいろな公共施設をうまく開放して、ただ安全面とかそういうのに注意しなくてはいけない、あるかも知れないけど、もう少しうまくいろいろな公共施設を開放していただいて、子供はやっぱり正直で、ゲームが楽しければゲームなのですが、体を動かして友達と何かやったりするのが楽しければ、そっちの方に行くと思うのですよね。ですからそういう場とかそういうのをうまく提供していただければと思います。

議 長

ありがとうございます。そうですね。昭和20年代だったらそんなだったのだなと思いますけれど、今、時代が遡ってますけれど近いところ来るとどうでしょうかね、比較的この中でお若いように見える錦織委員ですとか、今日はPTAの方から早川委員もお越しですけど。

何かございますか。ご自身のことでもいいですし、お子さんのことでもいいし。

委員

私は昭和48年生まれですので、43歳になります。昔はですね、最初生まれた時は親の職場の官舎というか社宅に住んでましたので、敷地内、皆さんお知り合いとかですね、最初の頃やったのは鬼ごっこをやったりですね、敷地内で自転車乗ったりということをしてました。当時、私もベビーブーム最大の時なので、どこ行っても子供が一杯ですね、遊ぶスペース探すのが大変ぐらいという時代ですね。幼稚園入って小学校入ったらやはり球技ですね、ボール使ってドッジボールやったりキックベースやったり、人数に合わせてゲームで遊ぶ、玉を使って遊ぶという感じでした。小学校の終わり頃からです、今話題のファミコンが出てきました、その頃から、何とか君家にファミコンがあるらしいと言って、行ってやったという思い出があります。それが今につながっているのかなと思います。とにかく今に較べれば昔の方が会話が沢山あったなと思います。今、うちの子供が中一と高一なのですけれども、やはり皆さん言うとおりでですね。ゲームばかりやっていますね。時代も変わったなと思いながらいますので、なるべく会話をするようなことを進めていきたいなと思っております。

議長

ありがとうございます。プライベートを聞けることはなかなかない。よろしければ早川委員PTAの方からご参加で、ご自身のことでもお子さんのことでも結構ですし。

委員

私は53年生まれなんですけれども、今、子供が小学生一年生と五年生でちょうどそういう世代というか、自分の小さい頃のことを考えてみたんですけれども、外で遊ぶこともあったんですけど、お友達の家遊びに行ったり、あとはテレビゲームが出始めた頃だったので、ちょっとやっぱり魅力的だったのでそこのお家に遊びに行ってやらせてもらうみたいなのも結構あったかなと思って、主人とその話しをして、主人の方は外遊びがやっぱり多かった、友達とサッカーを朝から暗くなるまでよくやっていた。遊びながら地域の人とかも声かけたり、かけられたりすることも多かった。そういう遊びながら叱られることもあったと言ってたので、地域との関わりとか、他人に叱られる機会が昔は今よりはあったのかなと思います。今、そういうのもなかなか無いのかなと思って、先ほど話されたみた

いにやっぱり子供は暇になるとゲームをやりたいとかそういう形になるので、やっぱり外で遊ぶ機会をもっと作れば、そういう環境になれば子供たちもそっちの方が楽しいっていう状態になるのかなと改めてそうだなと思いました。

議長

ありがとうございます。今、だいたい分かりましたけれど20年代の方から50年代の方まで30年以上の年齢差があるということで、この話だけでもずっと聞いていたい気がします時間があと10分を切ってしまったので、うまく今日、議論をまとめるという話ではないので、改めて遊びについて皆さんの思いに触れながら、今、子供を取り巻く状況に何か遊びの切り口で考える事はないかとのお話ですけれども、今後、今、遊びの中に求められているもの。皆さんのお話から出ていましたけれどね、こういったことをもっと、取り込んでくれというのはこちらから言うことではないかもしれませんが、子供たちが急に自主的に遊ぶのも容易ではないですけど、ただ、その辺の状況、環境整備ですとか状況づくりですとか、そういったところは我々まちを支えている大人達が考えられる事が色々あるんじゃないかと思うんですが、その辺り今日、事前にお伝えした今の遊びの中に求められているものですか、今後の子供の居場所づくりにこういった考え方を持ったらいいのではないか、その辺りについてのご意見なりご経験があれば伺いたいと思いますがいかがでしょう。

委員

人間の成長発達に、遊びの役割。何を一番身に付けていたらいいのかというふうに考えると、実は僕のところのNPOの方では、自立できない若者達の支援というのをやっているんですね。そこに非常に共通するものがあるんですね。それは、多分、遊びの時に身に付ける能力であったんじゃないかなって思うように思われるんですよ。それは何かって言うと決断する力が無いんですよ。考える力はあるんですよ。理屈は言います。だけどそれじゃあどうするのと聞いた時に決断するっていう力がないですね。僕は自由な遊びの中で、対人間とかいう危険なものに対して予見予知能力というのは自由な遊びの中で身に付けていったのだらうと思うんですよ。その辺のところかね体験不足で、こればかりは教えることができないので、自らが体得しなければならぬ能力なので、そこところが正に僕は遊びの大事な要素なのではないかというふうに思ってます。それもなんかやっぱり我々が関わっている20代、30代の位の若者達にはそれが無いから、それをその年になって補うというのは大変難しいんですよ。だからこれってや

やはり人が発達 の 段階で体得しなくては いけない時期があるのではない かな。それこそ僕は居場所の中の大 きなテーマになるのかなというふう に思っています。実際にいろいろな所 で、子供のことについて、若者の ことについて語り合うと、いつも言 われるのは、「人のつながりが切れて いるよね」ということと、「体験不足 だ実体験不足だよね」という会話が、 必ず出て来るんですよ。これ、もう、 遊びの中に含まれているのではない ですか。その2つのことって。ぜひ、 今後の居場所づくりでは、その点に ついてね、人間の発達、成長する段 階でどういう能力が遊びで身に付け ておかなければいけないかという視 点を持って議論してもらえるといい な、そんなふうに思います。

議長

これまでの様々 なご経験の中での貴重なご意見です けれど、たとえば具体的にいろい ろな団体が様々 な活動をしてますけ れど、たとえばということで、これ から取り組んでいく中でこんなこと を少し工夫したらいいのではないか とか、取り込んでいったらいいの はないかとか、何か具体についてサ ゼセッションというか一つ例でもい いですけど何かお話いただけるとあ りがたいですね。

委員

やはり管理が行き過ぎているのでは ないかという気がするのですよ。子 供の数も少ないし、それから遊ぶ場 所も限られているし、大人 の目が行き過ぎている。やっぱり基 本的にある程度、というのは成長の 段階で言わせてもらおうと、小さい 時はあまり親から離れないですよ。 大きくなると目の届かない範囲に 行動が広がりますよね、だから小 さいときにあんまり管理しないとい う部分、見守っていて、できるだけ 自由な遊びをさせてあげるとい うね、だからプレイパークの場合 は、遊びというところで自由にやっ ていますよね。ああいうのも大切な 要素だろうというふうには感 じますね。ただ基本的に僕はやはり 生活の中に遊びがなくては いけないという思いがあるんです。 というのはままごと、小さいとき のままごとって生活を反映した遊 びですよ、ですから生活から切り 離してしまうとプレイパークの場 合少しその辺が、遊びだけを特 化しているというね、生活とつな がっていったらいいなというふう に、具体的に言うのならそんなと ころで、遊びの大切さは、ものす ごく大事なものは、やはり小さい 時の大人 の目が行き届く範囲で 子供たちが動いている時に培われ る能力、そこは大切にしていきたい とそんなふうに僕は思います。

議長

ありがとうございました。もうお一 方、お二方伺っていきますが。

委員

私は22年生まれなのですが、先ほど話がありましたが、管理された遊びと、自発的な遊び、現代はほとんど管理された遊びになっていると思うのですよ。先ほど出ました、サッカーとか、野球はほとんどがクラブチームで管理者がいて、指導して指導の中で遊んでいるばかりじゃないかと思うんですよ。先ほどもありましたように今屋さん達は自由で自分達で考えて、自分達でできる範囲での遊びをしていた。クラブチームになってしまうとどうしても管理者がいて、もう本当に管理のがんじがらめの遊び。やはり遊びというのは自発的なものでないと、本当の遊びの心は生まれれないのではないかと。やはりそういう環境をこれから作っていかないと、本当に何もかもが全部管理されたものになってしまうのではないかなと思うんですよ。あとやはり、環境が少し自由ではない。もう少し遊びに自由が持てるようにしてあげないと、環境そのものも自由ではないと思うんですよ。そういう面では、公共的なものをもう少し子供達が遊べるような形、どうしても公民館なんかで遊ぶと、誰か管理者がいないから遊べなくなってしまうという、また公共的な建物とか遊び場は、管理者がいないと遊べなくなってしまう。もう少し管理者がいなくても自由な遊びができるような方向にもっていかねければと、私は思っております。今後の方向性としてそういうふうな方向にもっていければと思っております。

議長

ありがとうございます。どなたか。よろしいですか。

委員

先ほど言いそびれたところを一つだけ。実は私共で養成講座というのをやっております、その中で色々なことを体験してもらおうということをしているんですが、実施する方からすると怪我をされるのが一番怖いということで自分達で自縄自縛というんですかね。ですから、たとえば竹とんぼを作るにしても本当に完成間近まで準備をして、あとちょっとやると竹とんぼができるよというところで、先ほど言われたような作る喜びですとか、創意工夫という部分は、こちらの方で事前に削除してしまっている。結果とすると怪我はなくて、遊ぶという、竹とんぼを飛ばして遊ぶということはできるんですが、竹とんぼを作るという遊びの、半分以上は作るっていうのが遊びじゃないかと思うんですが、そこの部分はこちらの方で自制というか、削除してしまって、遊びを完結させてあげられないというのが、正直なところ一番の今、悩みです。これは色んな場面でなんにしても怪我をしないように、事故が起きないようにというのを前面にどうしても打ち出さなければ

ならない。たとえば燃し木を作る。飯盒炊飯で燃し木を作り火を点けるという時にも、ナタを使わなくても細かく燃し木ができてるんですね。要はナタを使って怪我をしたっていうところが、どこかでいくつか発生して、供給する方がナタを使わなくていいように細いものを準備している。一事が万事ではないんですけど、マッチにしても恐らく20代の人でもマッチの点け方がきちんと分からない。そういったことが縷々あるんですが、これは先程来出ている管理をし過ぎていているという部分がそういうところに波及していくんじゃないかな。逆に言うとそれを遂行する中で我々の中では一番の、正直に言うとジレンマに、怪我をしないけれど楽しんでもらいたいだけどその中で何かを学んでもらいたい。だけど怪我をしちゃ困るよねというところの堂々巡りが現状の、現時点での我々のジレンマということなんです。

議長

だんだん話が面白くなってきましたが、時間が来てしまったので、まだ今日、ご発言いただいてない方もいらっしゃるのですが、今日はちょっとまとめられないかと最初から思っていましたけれども、その中でもいくつかね、大事なご意見もいただいたと思います。遊びの本質というのは、基本的には自ら見つけてその中で仲間ですら場で作り上げるものだと思いますので、たいがいは大人が場を設定してやってなんということ自体がそもそもですね、遊びと乖離していると私も思う訳ですが、かといって今、大川委員のご発言の逆のようにね「全部、もういいよ、何してもいいから、怪我してもいいから」というふうには手放しにもなれないというのが、私たちの社会の実情でもあるし、各団体のやっぱり立場でもあると思いますので、この辺をどういうふうにやっていくのかというのが結構大事な話だと思うんですね。さっき和田委員がおっしゃっていた生活とつなげてその空間の中で遊びを取り込んでいけるような場の設定ができれば素晴らしいと思いますけれど。先程、まちの環境自体が管理された状態になってしまっているというお話がありましたが、私達もここ数年間、子供にやさしいまちづくりをテーマでずっと職員に研究させてきました。たとえばまちの公園の在り方とか、たとえば道路との関係とか建物と人の接し方。要はまちのハードの在り方が、子供の遊びとか子供の創造性を何か阻害しているのはいないか、それを逃す作り方があるのはいないかっていうことであるとか、後、まちの色々な機能の動き方とかが子供が育つということにつなげるやり方ができないかを色々研究させていまして、実際、そういう学問の分野もあつたりしてですね。子供環境学会というところがあつて、そういったところではそういうこと一生懸命研究し

て、子供が元気に育つまちづくり、まちの指標というものを今、作ったりしています。

そういうこともあるのですが、今、皆さんがお話されたことを改めて、先程、職員から報告した本市の事業の中にもう一回戻してですね、遊びの観点から見たらどうなのかということの検証を我々もしたいと思いますし。皆様方も今日の議論を改めて聞いて、ご自身の昔に戻ったところからの思いで、それぞれの活動に振り返っていただけると、やっていくべきこと、また対処すべきことがあるのではないかと思います。今日は具体的な居場所づくりのところまで議論が及びませんでしたけれど、ぜひそういう観点で、具体的に私たちの周りで子供達の居場所づくりをどうするのかというところに、また、この場での議論とも含めてつなげていきたいと思っておりますので、ぜひ、今日のテーマをあたためていただければと思っておりますのでよろしく願いいたします。以上で今日の議論は終わりになりますが、副会長何か、今日ご発言いただいておりますので。

副会長

一つはですね、卓上の方に関東甲信越静地区子ども会育成研究協議会の記念講演の資料ですけど、今、お話をされていたことがかなり含まれています。子供をいかに育てて、その関係で地域がいかに大事かということがよくまとまっている資料なので、今日、ご参考にとってお持ちしましたのでご覧いただきたいと思っております。一言だけ、今、意見を伺ってですね、私達子供会の行事をやってみて、正に同じで、子供達が遊ぶ経験が無いからですね。我々の子供の研修会、たとえば5年生が6年生になるための研修。6年生が地域で活躍できるような研修をやっていますけれど、その研修で一番肝心なことはですね、班行動、グループ活動をするのにですね、昔ですとここにも書いてあるとおり、ガキ大将がいて5、6人で遊ぶとすぐ役割が決まるんですよ。今はこれを決めるだけで時間がかかってしまいます。それほど人間関係に慣れていないというか、一人で遊ぶことは得意ですけど、ですから我々は皆さんもいろいろな団体で子供達が遊びの体験をしながら、いかに人との接しがうまくできるかがいろいろな行事の中で、人との関わりができるかということですね、ぜひ取り入れていただければと思っております。これはもう単に子ども会とか地域だけの、そういう子供達が大きくなって勤めた時に我々企業の中に、今、皆さんご存知のようにメンタルヘルスですとか人との関わり合いができない、コミュニケーションができなくて、仕事がうまくできないということ

が非常にあります。多分、その辺は、根っこはみんな同じような感じがしますから、皆さんが他の団体の中でぜひ、今の大事な、子供達は今が一番大事だと思いますから。そういう時に、人との関わりができるような形に皆さんに携わっていただければありがたいと思います。

議 長

ありがとうございます。意見も尽きませんが、時間になりましたので意見交換を終了させていただく。本日のご意見は、今後の青少年関係事業の参考にさせていただく。

以上をもって本日の議事を終了させていただきます。ご協力ありがとうございました。